

巻頭言

代表取締役社長 最高経営執行責任者
釜 和明



IHI技報創刊70周年記念号の発刊に際して、ご挨拶申し上げます。

当社は、江戸末期にあたる1853年の創設に始まり、近代日本の歩みとともに、その歴史の大きな転換点、経済不況などの数々の苦難を乗り越え、150年余りに亘って年輪を重ねて参りました。

その積み重ねの中において、「技術をもって社会の発展に貢献する」という経営理念のもと、船舶・海洋、航空・宇宙、環境、エネルギー・プラント、物流・鉄構、建設・産業機械など極めて幅広い分野での企業活動をとおして、社会に貢献して参りました。

今日、我が国の製造業は、アメリカの金融危機を発端とした世界的な金融・経済危機に直面し、大きな岐路に立たされています。しかし、このような困難な経営環境にある現在だからこそ、先人の教えに立ち返ることが必要であると存じます。

1938年に創刊された石川島技報(現IHI技報)を繙くと、「創刊の辞」に次のような件があります。

「株式会社東京石川島造船所は我が国工業界に於て、最も古くして且最も新しい会社であります。古いといふのは経験を意味し、堅実を意味し、新しいといふのは生産を意味し、内容を意味するのであります。」

先人達が語った「古くして新しい会社」は、創刊から70年を経過した現在でも当社の目指すべき理念であります。IHI技報は当社の技術成果の記録であり、新技術・新製品への挑戦の歴史です。当社には、長い歴史の中で先人達が育み、魂をこめてきた技術と、果敢に挑戦する精神というかけがいのない財があります。この二つの財をさらに研ぎ、今こそ「古くして新しい会社」に立ち返り、この困難な時代をなんとでも乗り越える所存です。

読者の皆様におかれましては、このたびの創刊70周年記念号が、「先人達が切り拓いた技術、精神を受け継いで、それを血肉にして一丸となって新技術・新製品開発に邁進する」という決意の表れと汲み取っていただければ幸甚に存じます。当社の過去・現在・未来へと脈々と流れている技術開発への熱い思いにつきまして、ご理解を深めていただくとともに、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。